

校名： お茶の水女子大学附属高等学校

所在地：〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 電話番号：03-5978-5857

記載日：2016年 5月20日 記載者：菊池 美千世 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

【附属高等学校の特色】

130年を超える伝統を持つ、国立で唯一の女子高等学校である。
社会に有意な教養高い女性を目指し、真摯に努力する生徒を育てている。
大学と同じ敷地内にある利点を生かし、いち早く高大連携教育に取り組んできた。

【附属学校全体】

- ・「オールお茶の水体制」：一つのキャンパス内に大学とすべての附属校（幼小中高）があるという地の利を活かし、日常的な連携体制を基盤として、「教育」「研究」「運営」の各分野において、緊密な連携性を保つ。
- ・幼小中高と一貫して児童生徒の主体性自発性を尊重したアクティブラーニングを推進している。
- ・緊密な連携を可能にする各種ミーティング：学長を長とする附属学校本部本部会議を中心に、附属学校委員会（運営）、学校教育研究部（教育と研究）、教育研究推進専門委員会（附属と大学の共同研究推進のための会議）をそれぞれ定例でほぼ毎月開催しているほか、高大連携実施委員会を年数回程度開催している。
- ・附属学校教員と大学教員による教育の連携・共同：附属学校教員の大学の授業への協力（教職科目、非教職科目共）、高大連携における大学教員の高等学校教育への協力がある。
- ・公開教育研究会、合同研修会（学内・地域）、外部からの参観視察受入を積極的に行う。
- ・東村山郊外園を大学・附属校が管理運営し、幼小中高の自然教育、勤労教育に活用している。
- ・附属学校の校種を超えた教員と大学教員による、テーマ別部会（研究会）を行ってきた。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 同窓会やホームカミングデー、各種学校行事に来校した卒業生に、「卒業生の進路アンケート」として、高校卒業後の経歴（学歴・職歴等）、現在の連絡先等の情報提供を依頼している。
- ② 情報は学校が持っている。本人の同意により、同窓会と情報を共有する。
- ③ 提供された情報のデータベース化が不完全であるため、十分に活用する段階には至っていないが、キャリア教育などに活かしている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○教育

*高大連携：大学の教育研究資源の日常的な活用

- 大学と同一キャンパス内にある利点を生かし、放課後に大学の授業を受講できる「附属高校生向け公開授業」が実施されているほか、大学のサマープログラムや各種講演会・イベントなどに、高校生も参加することができる。
- 学校設定科目「教養基礎」（後述）や「総合的な学習の時間」を中心に、大学の先生方による高校での授業が年間を通じて実施されている。
- 大学図書館や e-ラーニングシステムも高校生が利用でき、探究的な学習や語学の自習に活用している。
- 大学生・大学院生がチューターとして、定期考査前などに高校生の補習を行っている。

*66回を数えるダンスコンクール

1・2学年の6クラスが振付け・衣装・音響などに創意工夫を凝らし、毎年のテーマに沿ってダンスを創作する。クラスごとの個性を競うとともに、協調性を養うことができる伝統行事である。大学の舞踊教育学コースの教員・学生の指導・支援を受けている。

*農場実習（勤労教育）

東村山郊外園にてジャガイモ・サツマイモ等の栽培を行い、自然に親しむとともに、理科・家庭科などの教科との連携をはかりつつ勤労教育を行っている。

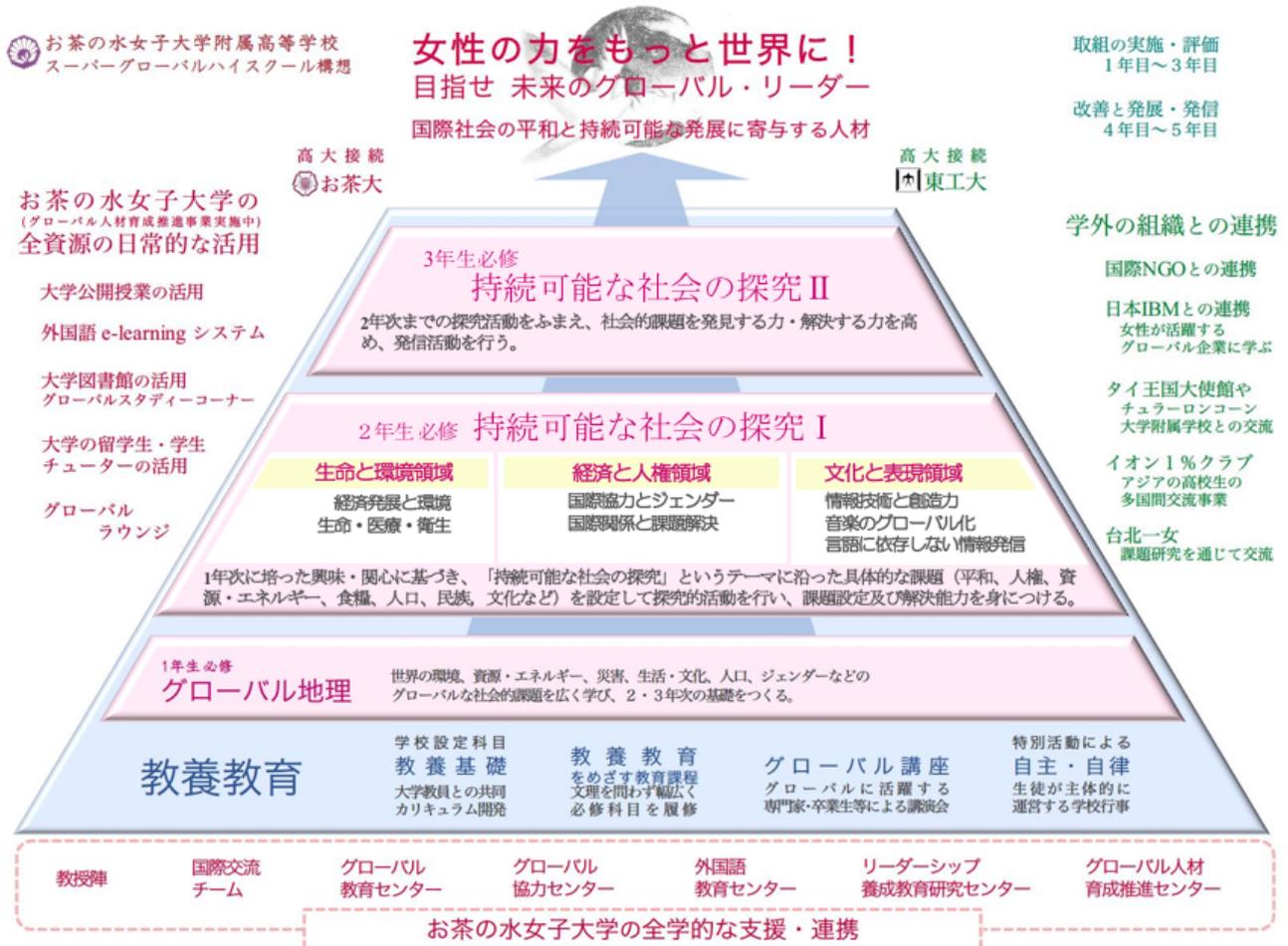
○研究

*スーパーグローバルハイスクール（平成26年度～30年度 文部科学省指定）

テーマ：「女性の力をもっと世界に ～ 目指せ未来のグローバル・リーダー ～ 」

- グローバル女性人材として、自国の文化を含む多文化理解、共感力、協働精神を有し、国際社会の平和と持続可能な発展に寄与する意欲と能力を持つ人材を育成する。また、自律的に学び、考え、行動し続ける姿勢、チャレンジ精神を育成する。
- 大学教授陣や国際NGO、グローバル企業などと連携し、全校生徒が3年間必修で課題研究に取り組む教育課程を開発する。
- 1年次は学校設定科目「グローバル地理」で現代世界の諸課題の学習を行い、2・3年次の探究活動の基礎を身につける。2年次は「総合的な学習の時間」として「持続可能な社会の探究Ⅰ」を設置し、「生命と環境」「経済と人権」「文化と表現」の3領域7講座に分かれて探究活動を行う。3年次には「持続可能な社会の探究Ⅱ」を設置し、2年次までの探究活動の成果を持ち寄り、「持続可能な社会」という大きなテーマで英字新聞を作成して発信する。
- 臺北市立第一女子高級中学（以下、北一女）と交流協定を結び、相互訪問を行っている。北一女の生徒とグローバルな課題について情報交換や討論を行うことで探究活動の幅を広げるとともに、グローバル人材に必要な資質・能力・意欲についての考えを深める機会としている。

- ・探究活動の成果を発信する場として、各種コンクールなどを積極的に活用している。また、コンクールなどに参加することで外部の評価をいただくことができ、探究活動を振り返り、深めることにつなげている。



*お茶の水女子大学との高大連携特別教育プログラム

「女性の能力開発」モデルの考案を企図し、基礎・基本に根ざした教養の涵養を目的とするプログラムである。

- ・大学と同一キャンパス内にある利点を生かし、放課後に大学の授業を受講できる「附属高校生向け公開授業」が実施されている。
- ・基礎に根ざした幅広い教養の涵養が必要であるという趣旨から、国語・数学・英語のカリキュラムを大学・高校教員の連携のもとに研究・開発している。この3教科では正規の科目の他に学校設定科目として「教養基礎」を設置し、大学教員による授業も行われている。教養基礎科目は1・2年次が必修、3年次は選択である。
- ・お茶の水女子大学の特別入試受験を前提として、高校3年生が大学の学科等（学科、講座、コース等）を選び、専門の基礎教育を受ける「選択基礎」というプログラムが実施

されている。各学科等では、文献を読ませたり実験や実習をさせたりなど個別指導の形で、一年間を通じて大学の2単位分の授業を実施する。

- 大学教員が各専門の学問の概要を説明し、その学問の研究手法や将来の進路についてを中心に説明するキャリアガイダンスを、1年生全員と2年生の希望者を対象に実施している。

*東京工業大学との高大連携教育

東京工業大学と「理工系に優れた学生の育成に向けた高大連携教育システムを構築すること」を目的とした連携研究を行っている。「ウィンターレクチャー」、「サマーチャレンジ」、オープンキャンパス、高大連携特別入試などからなる取り組みである。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

東京都文京区に立地しているとはいえ文京区在住の生徒は約1割と少なく、1都6県が通学圏となっている本校は特定の結びつきを持つ「地域」を持たないが、公開教育研究会、参観・研修の受け入れ、研究物の刊行等を通して全国に情報を発信している。

また、大学と協力しながら、地域の教育関係者、研究者、保護者、児童生徒が利用できる研究センターの設置を目指している。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校は国立の高等学校の中で唯一の女子のみの学校である。ダイバーシティという言葉が多用される今日、教育の多様な選択肢の一つとして本校の存在があるといえる。

戦後70年、多くの高校・大学が男女共学となったが、日本のジェンダー・ギャップ指数は100位以下と低迷を続けており、共学化が女性の社会参画の実現に必ずしもつながっていないことをうかがわせる。女子のみで学ぶ本校では、生徒は性別に過度にとらわれることなく「個人」として自分の個性や能力を伸ばすことができ、卒業後も幅広く社会で活躍している。卒業生は社会的関心が高く、ジェンダーセンシティブな感性を持っており、社会の矛盾や課題に気づき、その解決に資する人材ともなっている。少子高齢化が進み女性の活躍がより重要になる現在、貴重な教育の場となっているといえよう。

ほとんどの生徒が卒業後は大学に進学するが、早い段階から文理などのコースに分けることなく、基礎・基本と教養を重視し、幅広い教科・科目を必修で学ぶ本校の教育は、高等教育や社会で活躍する際のしっかりした土台を築いてきた。こうした伝統に根ざす従来からの教育活動に加え、近年は高大連携の先駆的な取り組みを実践するとともに、スーパーグローバルハイスクールとしてグローバル人材育成のカリキュラム開発を行うなど、高大接続を含む新しい高等学校教育のあり方の研究に資することを使命としている。